

■背景

- ・周南市中心市街地では、近鉄松下百貨店の撤退(H25.2)により、まちの最大の求心力を失うなど、このまま放置すれば、まちの“にぎわい”がどんどん低下していくことが危惧されています。
- ・しかし、その一方では、駅自由通路の完成が平成26年度末に控えているほか、まちの中心部には新しい形態のカフェ店舗等が開業するなど、「人の流れ」が大きく変わろうとしています。
- ・本計画ではこうした「新しい動き」にも対応した社会実験実施計画の作成が求められます。



■業務実施の基本認識 (業務実施の着眼点)

～ いかにして関係者の合意や市民の賛同を得るか ～ 関係者等の合意が得られる実施計画の作成

- ・昨年度調査では、検討委員会等により、社会実験に向けて一定の方向性を示したものの、沿道商業者等の合意形成が課題となり、その実施に向けては、まだまだ解決しなければいけない課題を多く抱えています。
- ・本年度調査ではパークタウンの理念に沿った歩行者優先道路化の実現に向けた社会実験の企画を行うとされていますが、その成否は、「いかにして関係者合意や市民賛同を得るか」にかかっていると考えます。
- ・こうした基本認識(着眼点)のもと、本業務を進めるにあたっては、以下の3つの実施方針を提案します。



H24 社会実験(弊社実績)

方針1

～ 市民等の合意に向けて ～
中心市街地活性化の一環として周辺への波及

○今回の取り組みでは、「何のために社会実験を行うのか」、そもそも「何のために歩行者優先道路化なのか」「どんな将来ビジョンを描き、どんな道路を目指していくべきなのか」について関係者でしっかり共有し、一般市民にも、できるだけわかりやすいものとしていくことがポイントと考えます。



将来ビジョン案(作成模型)

○本事業については、中心市街地活性化の一環として位置づけ、市上位計画や駅周辺整備計画、その他周辺計画と整合させていながら、「まちを変えていく」起爆剤となって、周辺へ波及していくことが肝要です。さらに今後、周辺のエリアマネジメント的な“礎”を築いていくことを視野に入れた考え方とそのための合意形成が必要となります。

方針2

～ 沿道商業者等の合意に向けて ～
沿道商業者等が自ら動く社会実験を企画

○社会実験は目的ではなく、手段にすぎません。しかし、その社会実験を実施していくにあたって、現在、沿道商業者等の合意が十分に得られず、未だ一つにはまとまっています。今後は、ビジョンや目的を明確にし、沿道商業者はもちろん、隣接するエリアの商業者やその他関係者等の合意を得ることがポイントと考えます。



沿道の店舗

○沿道商業者等の合意形成に向けては、どのような主体に、どのような手順でアプローチしていくか等の戦略のもと、検討段階から地域を巻き込み、主体性を尊重していくこと。すなわち、沿道商業者等が“自ら動く”社会実験を企画していくことが重要と考えます。

方針3

～ 交通関係者等の合意に向けて ～
歩車双方のWIN-WINのカタチを追求

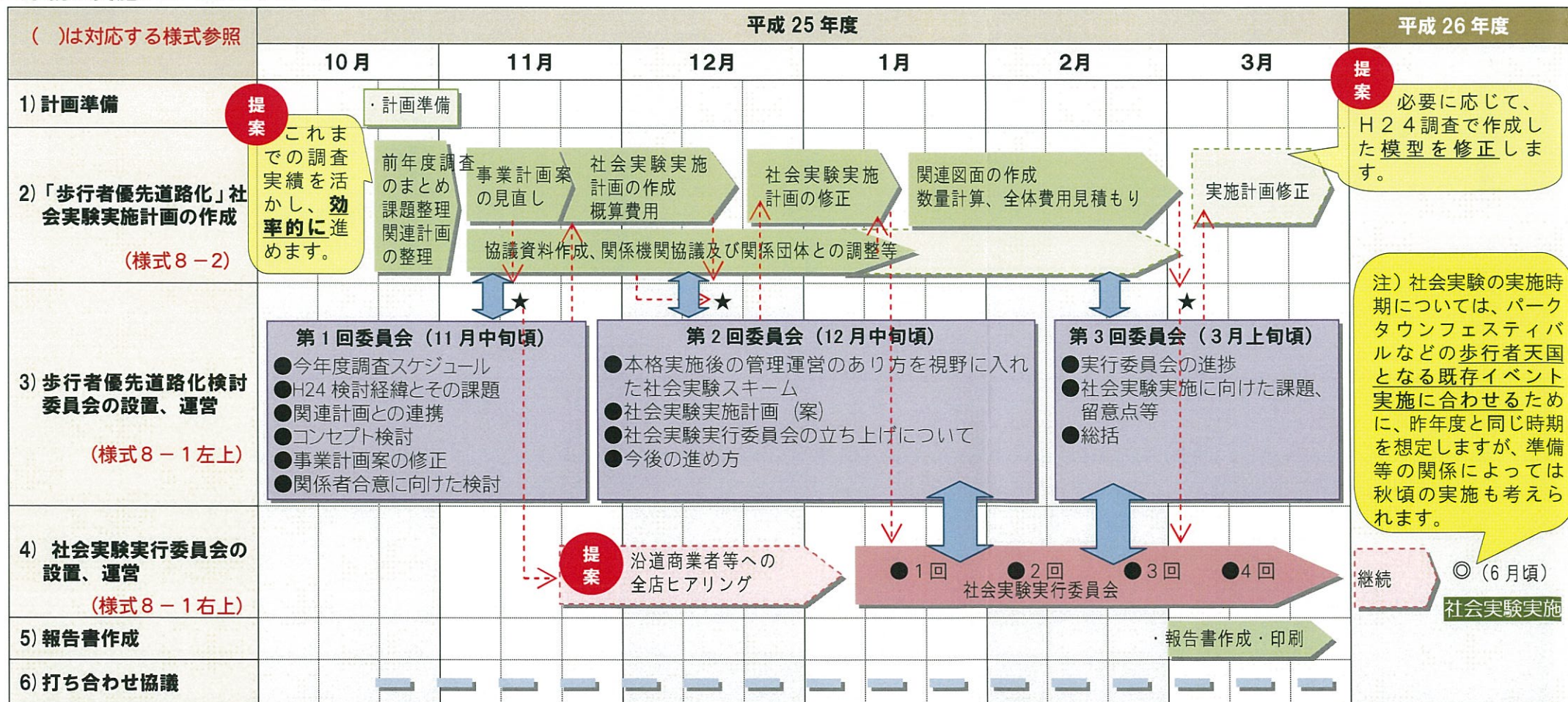
○平成24年度調査では一方通行化することに対し、とくにバス事業者等や警察、道路管理者等の交通面の関係者の合意形成が課題とされました。今後、歩行者だけでなく歩車の“WIN-WIN”の関係を築きあげていくことがポイントと考えます。



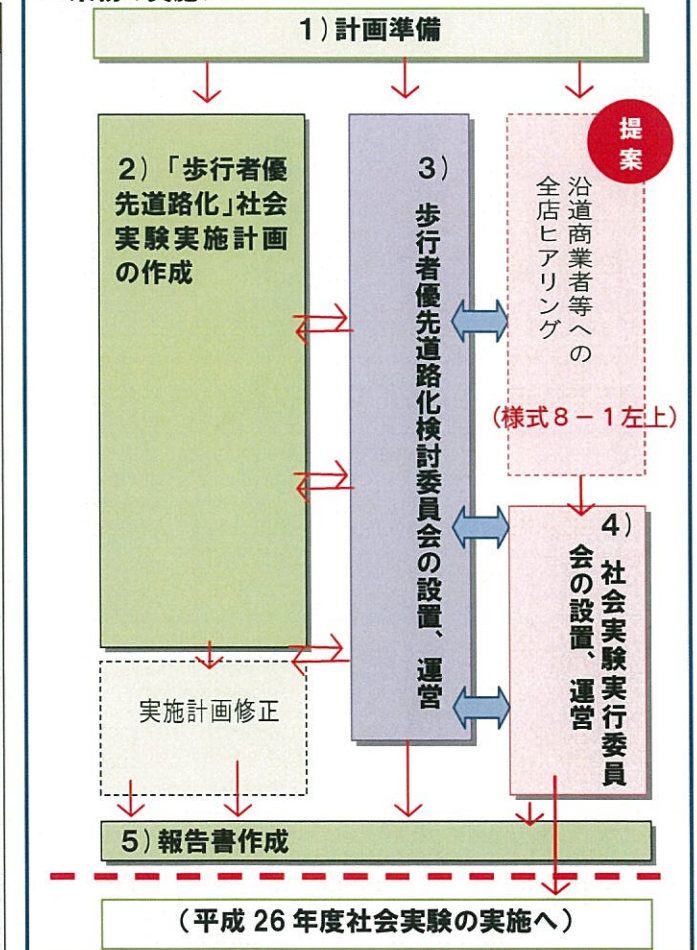
道路内を走るバス

○本事業では、昨年度計画の事業計画(案)をベースにするものの、必ずしもそれにとらわれない“代替案”等を提示しながら、関係者合意を謀っていくことが必要です。最終的には、社会実験を活用することによって、交通課題をきっちり分析し、歩車双方が納得できる“カタチ”を追求していくことが必要となります。

■業務の実施フローとスケジュール



■業務の実施フロー



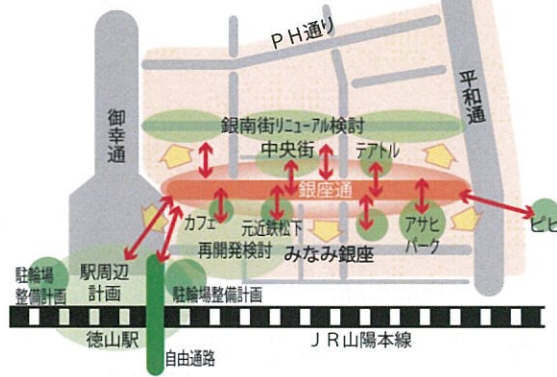
■本業務に対する具体的な提案 (業務の進め方)

方針1

「中心市街地活性化の一環として周辺への波及」に関連して

●コンセプトを明確化にし、関係者で共有をはかります(回遊性にぎわいを周辺へ波及)

- まず、なんのための社会実験か、その将来像をどう描くのか、関係者で共有する必要があります。
- ここでは、中心市街地活性化の一環として捉え、「ゆとりと交流のあるまちづくり」のシンボルロードとして、市民が誇れるみちをつくり、線から面へと中心市街地に歩行者の回遊性にぎわいを波及させていくことが「ねらい」であると考えます。
- 本計画では、まずこのようなコンセプトを明確にし、ロゴや模型等をも活用して、市民等、だれにでもわかりやすく賛同が得られやすい社会実験実施計画の策定を行うことを提案します。(下枠の方針3に関連)



●関連計画や民地、周辺施設との連携に留意します

- 単に歩道拡幅だけでは、上記の歩行者の回遊性は生まれません。沿道に面する店舗はもちろん、駅周辺の整備計画や、駐輪場整備計画、銀南街リニューアル計画などの周辺計画や既存施設などとの連携が不可欠となります。
- 本計画では、必要に応じて、前年度東京大学実施の移動実態アンケート調査結果などを有効に活用させていただきながら、「人の流れが変わる将来形」を見据えた実施計画の策定を行うことを提案します。

●本格実施後の管理運営のあり方についても視野に入れた検討を行います

- 持続可能な回遊性にぎわい創出に向けては、本格実施後、拡がった歩道空間部分をどう管理していくのが重要となります。
- 本計画では、銀座通りを含む周辺部のエリアマネジメン的な考え方も視野に入れ、将来の管理運営と一体で検討を行うことを提案します。(様式8-2右枠「3. 組織化の工夫」参照)

●「歩行者優先道路化検討委員会の設置、運営」について

- 以上の検討事項を踏まえ、検討委員会では、概ね以下のテーマで検討を進めていくことを提案します。

第1回	11月中旬頃	●今年度調査スケジュール、●H24 検討経緯とその課題、●関連計画との連携、●コンセプト検討、●事業計画案の修正、●関係者合意に向けた検討 等
第2回	12月中旬頃	●本格実施後の管理運営のあり方を視野に入れた社会実験スキーム、●社会実験実施計画(案)、●社会実験実行委員会の立ち上げ、●今後の進め方
第3回	3月上旬頃	●実行委員会の進捗、●社会実験実施に向けた課題、留意点等、●総括

方針3

「歩車双方のWIN-WINのカタチを追求」に関連して

●“歩”にとってのWINを追求 ~社会実験に対する沿道商業者の懸念を解消し、通りの一体感をつくる~

- 歩行者優先道路を実現させていくためには、沿道商業者の理解や協力が不可欠ですが、沿道商業者の中には、一方通行化などによって客足が遠のくのでは、と懸念している方もおられます。(H25.8 関係者ヒアリングより)
- 今回の社会実験計画では、上記方針2に示す「沿道商業者などの主体性を促す」こととともに、沿道商業者が抱える社会実験や歩行者優先道路を実現させる上での懸念を解消するように進めます。

○各店舗でも周知ができるよう、社会実験実施のポスターやイメージロゴを作成

- 事前にポスター掲示などで周知を図るとともに、統一のイメージロゴなどで、通りの一体感や銀座通り全体での実施していく気運の向上を図っていきます。

○銀座通りの通行者だけでなく、各店舗の利用客に対する意向把握調査を企画

- 社会実験中の歩行者に対する意識調査を行うとともに、店舗利用者に対しても各店舗の協力の下、意識調査を行うことを企画します。(一方通行化による来訪者の意識の変化や景観形成による通りの演出についてなど)

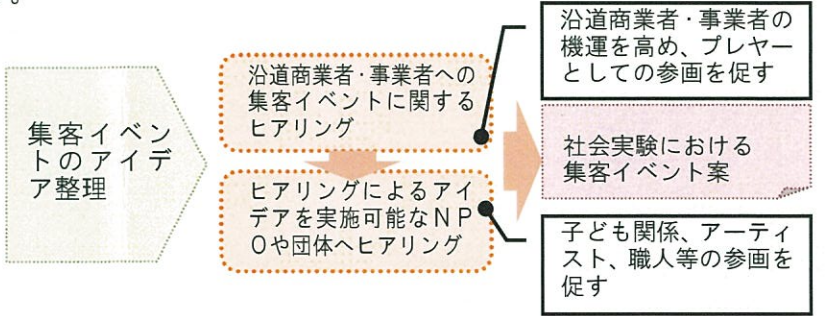


方針2

「沿道商業者等が自ら動く社会実験を企画」に関連して

●歩道空間を活かした集客事業やその担い手発掘に向け、まず、全沿道商業者・事業者等へのヒアリングを行います

- 通りのにぎわいを創出するためには、拡がった歩道空間を活用した、ソフトな集客事業を実施することが不可欠です。
- 前回の社会実験においては、空間演出とその活用として、オープンカフェなどの取り組みを行いました。さらに多様な集客事業を計画、実施していくことが必要です。
- そのためまず、歩道での集客事業に対する要望や意向を把握するとともに、自身がプレイヤーとして実施できる事業を引き出すことを目的に、銀座通りの全沿道商業者や事業者に対して、ヒアリング調査を実施することを提案します。
- また、普段、通りを訪れない子育て層やアーティスト・職人など、新しい利用者の発掘による新しい客層誘致も進めます。「ぺぶる」など



●沿道商業者などの主体性を促し、イベント等の賑わい創出や管理運営に関わる社会実験内容を企画します

- まず上記のヒアリング等によって、実行委員会メンバーを募ります。
- 実行委員会を通じて、沿道商業者等の主体性を促し、個々の空間利用(次頁下図のA~Gエリア)について街区割で役割分担し、実行委員会メンバーが主体となり、「集客イベント時間割プログラム」を作成していきます。
- 併せて、将来的な仕組みづくりに向け、歩道を活かした空間利用の管理運営についても検討を行い、社会実験に組み込みます。(様式8-2参照)



(弊社事例)歩道を活用したマルシェイベント (弊社事例)沿道楽器店による歩道を活用した音楽発表会

●「社会実験実行委員会の設置、運営」について

- 以上を踏まえ、実行委員会では、概ね以下のテーマで検討を進めていくことを提案します。(必要に応じ開催回数を増加)
- 構成メンバーは、右のとおりを提案しますが、参加者からの紹介により、途中「数珠つなぎ方式」によってメンバーを増やしていくことも考えられます。

第1回	1月中旬頃	●H24 社会実験の反省点など ●今回の趣旨確認 ●検討委員会で検討された実施計画について ●拡幅歩道空間利用の内容(集客イベント等)
第2回	2月上旬頃	●拡幅歩道空間利用の内容と主体(A~Gエリアごと)
第3回	2月下旬頃	●社会実験実施要領(案)
第4回	3月中旬頃	●社会実験実施要領と役割分担、●PR用ポスター等

「実行委員会」の構成イメージ(案)
(概ね15~20名程度)

- H24年度準備会メンバー
- (株)まちあい徳山
- 建築士会徳山支部まち塾
- 徳山商工会議所
- 徳山大学
- 徳山高専
- 銀座通商店街
- 周南市(中心市街地整備課、道路課等)
- その他(ぺぶる等市民活動団体)
- (その他周辺商店街の有志)

今回の社会実験を行うにあたっては、将来の本格運用を含め、関係者が抱える懸念などを解消していくことが重要と考えます。そのため、以下のようなポイントを明らかにし、歩行者優先道路化による、歩車双方のWIN-WINのカタチを追求します。

●“車”にとってのWINを追求 ~バス事業者や警察等との事前協議に密に行い、十分に調整する~

- バス事業者については、バスルートの変更やバス停の設置場所などに対して、懸念を示されています。社会実験中のバス停の位置については、再度バス事業者との十分な協議等を踏まえ、バス利用者にとっても利便性を損なわない位置について検討します。(各検討委員会実施前に事前協議を密に行い、十分に調整を行います。)
- 警察関係については、歩行者の自由横断時の安全性やバリアフリー化による段差解消について注意を図るよう指示をいただいております。今後十分に調整して実施計画案を作成していきます。
- 社会実験中の歩行者に対する意識調査については、交通や景観や憩い空間の創出などの面だけでなく、そういった交通面での安全性についても把握し、実施計画案に反映させていきます。



現在のバス停

「歩行者優先道路化 社会実験実施計画の作成」について (実施計画のアウトプットにかかる提案)

●これまでの課題

- 平成24年度調査では、平成25年度以降の社会実験の目標として「空間利用と一体となった空間演出、さらにそれを実現する交通体系の社会実験を行う」としています。
- そこで、その空間を実現させるために、歩道部分を拡げ、「一方通行化」を行うこととし、将来イメージ及び社会実験の計画を作成しています。
- ここで、誤解を招きやすいのが、「本来は、一方通行化が目的ではなく、快適で利用しやすい歩行者空間をつくるのが目的」ということです。
- 上記の「誤解」もあり、一部の関係者(沿道事業者等含む)からは「一方通行には反対→社会実験に反対」という構図で、なかなか合意が得られないというのが現状と考えます。



●改善案のポイント ~見える化とパッケージ化~

- 今後、関係者の合意を得るためには、左記の「誤解」を払拭し、まずは、歩行者空間が拡がることを体感していただくなどの、**メリットの「見える化」を工夫**していくことが重要です。
- そして、様々の主体のニーズに応えるためにも、単に空間だけの議論でなく、放置自転車の問題やその自転車利用、民地とのつながり、荷捌きの問題等、**様々な戦略を「パッケージ化」**して解決していくことが必要となります。

●持続可能な「本格実施」に向けて ~組織化~

- 最終的には、本格実施を目指すこととなりますが、左記に基づいて検討した空間・交通戦略を、さらに持続可能な施策としていくためには、イベント時だけでなく、恒常的ににぎわいをもたらすべく空間を利用するプレーヤーを次々に生み出していくような仕組みづくりが必要となります。
- そのため、こうした空間整備と一体的に**管理運営(組織化)のあり方**についても(すなわち、誰が主体となるのか)同時に検討していくことが重要と考えます。



1. 見える化(ハード)の工夫

「一方通行化を前面に出さない」社会実験企画の提案

- 上記のような「誤解」については、言葉だけで説明しても、なかなか理解していただけません。ましてや「一方通行だけの社会実験」はそうした「誤解」をさらに助長させてしまうことにもなりかねません。
- そこで、以下に示すように、「必ずしも一方通行化を前面にださない」ような「見える化」の工夫が必要となります。

一步通行化と対面通行化を併用して実施することも視野に入れます

- 社会実験の目的は、コンセプトに示す将来像実現に向けた快適な歩行者空間を創り出し、その影響や効果をみることです。
- そのパターンとしては、以下に示すように、①一方通行化、②対面通行化があり、社会実験では、これらを併用して、その違いを体感していただくことが、市民の理解を得る最もわかりやすい方法と考えます。(②の対面通行案は、ほとんど歩行者空間は拡がらない)
- そこで以下に示すよう、A案を基本案とし、必要に応じてB案の代替案についても検討することを提案します。

	スケジュール			概算金額 (下図で試算)
	日曜	月曜～日曜	月曜～日曜	
A案 (基本案)	歩行者 天国	① 一方通行 (2週間) 計2週間	—	直接経費 約 2,200万円
B案 (代替案)	(イベ ント)	① 一方通行 (2週間) 計3週間	② 対面通行 (1週間)	直接経費 約 3,000万円



2. パッケージ化(コンテンツ)の工夫

全店舗ヒアリング調査によるニーズに合わせた空間演出の提案

- 社会実験の空間演出パターンについては、できるだけ、ヒアリング調査による沿道事業者等のニーズや地域の実状に合わせるとともに、来街者のアクセス性、回遊性を考慮した設えを施していくことが重要です。



① 沿道店舗業態に合わせた空間演出

- 歩道拡幅部分は「千鳥配置」となり、社会実験では沿道の店舗の業態に配慮した空間演出が必要です。例えば、近年開店した「カフェ」前にウッドデッキを配置することなどが考えられます。(以下の図①)
- また、商業者ニーズにあわせ、共同荷捌きスペースをできるだけ街区単位で(多く)配置することを検討します。(合意形成時にも効果あり)

② 自転車利用者を考慮した空間演出

- 銀座通りには自転車でのアクセスが多く、とくに駅前では放置自転車の問題も深刻です。だからといって単に排除するのではなく、きちんと自転車置き場についても、有効な場所に確保することが重要です。



③ 民地とのつながりや歩行者の回遊性を考慮したコンテンツ導入

- 空間利用ニーズや民地とのつながり、歩行者の回遊性等を考慮したコンテンツの導入が必要となります。必要に応じて、東京大学実施の移動実態調査結果などを活用させていただくほか、来年度社会実験時にも再実施し、回遊実態等の検証を行うことを提案します。



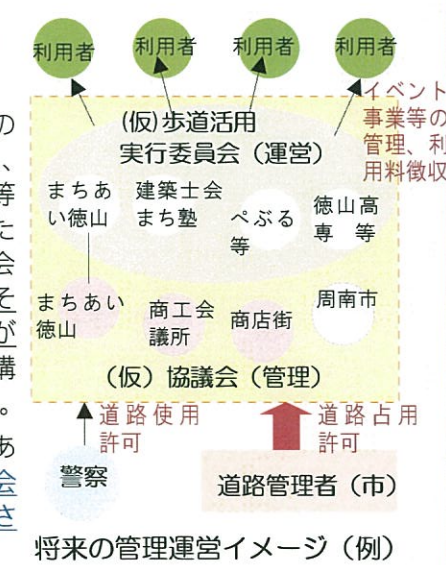
3. 組織化(ソフト)の工夫

拡がった「歩行者空間」の管理運営に向けた主体づくりの提案

- 本格実施に至るまでの間に検討すべき事項として、単に道路管理者に委ねるのではなく、「拡がった歩行者空間」をいかに管理していくかが課題となります。以下にその管理運営のイメージについて提案します。

動くプレーヤーを中心に「活動が次々に広がる」運営形態に向けた実験

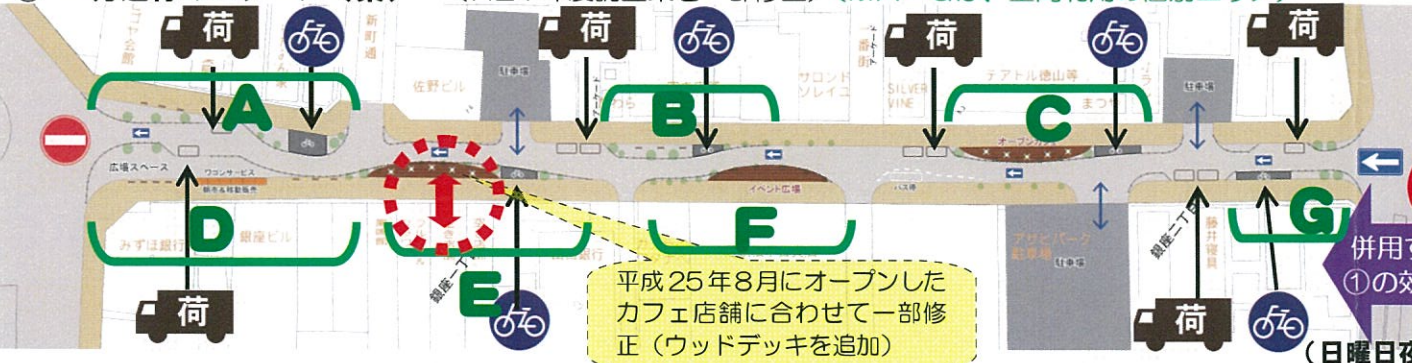
- 将来の歩行空間の管理主体としては、まちあい徳山、商工会議所、銀座通商店街、あるいはその連合組織体(場合によっては周南市も含む)として「(仮)協議会」等が担うことが考えられ、道路使用許可申請や利用料の徴収を行います。
- 上記協議会には、個々のスペースのソフト運営を機動的に行うために、「建築士会まち塾」や「べぶる」等の市内の主要な活動団体を含めた「(仮)歩道活用実行委員会」(社会実験実行委員会の後身)を含め、そこから恒常的な活動(歩道利用者)が次々に広がるような運営形態を構築していくことが理想と考えます。
- 社会実験実行委員会では、上記のあり方についても検討を行い、本社会実験では、できる形からスタートさせていくことを提案します。



将来の管理運営イメージ(例)

① 一方通行のパターン(案)

(H24年度調査案を一部修正) (*A~Gは、空間利用の個別エリア)



② 対面通行のパターン(案)

